

2018年度 教育奨励基金「学習・研究奨励金」

# 自尊心測定アプリの開発

学習・研究成果報告書

環境情報学部2年 松下佳鈴

## 1.実施背景・目的

自尊心には、顕在的自尊心と潜在的自尊心の2種類あると考えられており、Jordanらは顕在的自尊心を“意識的な報告や回答から得られる自尊心”，潜在的自尊心を“無自覚な回答から得られる自尊心”と定義した [1]. 精神疾患の一種である抑うつが自尊心と関連があることが明らかになっており [2], 自尊心がうつ病に影響を与えると示唆されている [3]. それらの社会への影響から、自尊心の評価を迅速かつ適切に行う手法の重要性が増していると考えられる. 自尊心の評価に際しては、顕在的自尊心はローゼンバーグ自尊感情尺度 (RSES) [4] などによって測られ、潜在的自尊心は潜在的態度を測る潜在関連テスト (IAT)[5] を用いる方法などが提案されてきた [6]. RSES はペーパーテストとして開発されたが、他の質問紙や課題とともに用いられることが多く、質問紙への回答などの他にパソコン操作を依頼するのは被験者への負担を増幅させると考えられ [7], IAT のようなコンピューターテストでは一斉に実施することが難しいなどのデメリットがある. 紙鉛筆版も開発されたが [8], 反応時間が計測できないなど精度の問題が指摘されている [9]. このように、現在使用されている自尊心の評価方法には、各々問題点が存在する.

そこで本活動では、自尊心を測定できる iOS・Android アプリケーションの開発を行う. 自尊心を測定する質問紙・テストをアプリケーション化することによって、上記の問題点を克服し、また、より簡易的かつ短時間での実施を可能にできないかの検討を行った.

## 2. 開発

ローゼンバーグ自尊感情尺度 (RSES) と潜在関連テスト (IAT) のアプリ版を開発した. 質問紙である RSES については、紙版を元に作った. iOS アプリケーションには、swift を使い、Android アプリケーションでは、Java で開発した. 回答方法としては、RSES では 4 つの選択肢のボタンを押して回答し、IAT は左右の選択用ボタンを押すように設計した.

実機テストについては、iOS タブレット端末 (iPad pro, 10.5 inch) および Android スマートフォン端末 (OPPO15, 6.2 inch) を使用して行った.

## 3. 成果

画面の様子を下図に示す.



図 1. iOS 端末の実機テストの様子(RSES)



図 2. Android 端末の実機テストの様子(IAT)

今回の活動においては、自尊心を測定するテスト2種のアプリケーション化を行った。

#### 4. 今後の展望

今回は筆者一人が実機テストを行い体験したが、今後の展望としては、筆者以外の多くの人に実施してもらうことで、本アプリケーションが実際に時間短縮につながっているのか、簡便になっているのかを明らかにしていきたい。

#### 謝辞

本活動は、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス教育奨励基金「学習・研究奨励金」の助成を受けて実施された。資金提供をしてくださった慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス教育奨励基金様、城南信用金庫様に感謝いたします。

#### 参考文献

- [1] Jordan, C. H., Spencer, S. J., Zanna, M. P., Hoshino-Browne, E., & Correll, J. Secure and defensive high self-esteem. *Journal of Personality and Social Psychology*, 2003.
- [2] 片受靖, 濱洋子. 潜在的・顕在的自尊心の高低と抑うつとの関連について. *立正大学心理学研究所紀要*, 2016.
- [3] Chih-Che Lin. The relationships among gratitude, self-esteem, depression, and suicidal ideation among undergraduate students. *Scandinavian Journal of Psychology*, 2015.
- [4] Rosenberg, Morris. 1989. *Society and the Adolescent Self-Image*. Revised edition. Middletown, CT: Wesleyan University Press.
- [5] Anthony G. Greenwald, Debbie E. McGhee, and Jordan L. K. Schwartz. Measuring Individual Differences in Implicit Cognition: The Implicit Association Test. *Journal of Personality and Social Psychology*, 1998.
- [6] Anthony G. Greenwald and Shelly D. Farnham. Using the Implicit Association Test to Measure Self-Esteem and Self-Concept. *Journal of Personality and Social Psychology*, 2000.
- [7] 藤井勉. 上淵寿. 紙筆版 IAT を用いた自尊心査定の試み. *東京学芸大学紀要*. 2010
- [8] 岡部康成. 紙筆版潜在連合テストの妥当性の検討—大学生の超能力信奉傾向を題材として—, 2004.
- [9] 潜在的社会的認知研究の進展 -IAT(Implicit Association Test)への招待-, 2002.